2026　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	言語聴覚士学科昼夜間部		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	講義演習
科　目　名	高次脳機能障害Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	402教室
担 当 教 員	(1-15)田中恵子　寺井 淳 (16-30)竹田　克之	実務経験とその関連資格	(竹田)総合病院で3年、脳神経外科専門病院で17年臨床現場でリハビリテーションに取り組んできました。高次脳機能障害をはじめ、多数の症例を見てきていますので、気軽に臨床についての質問をして下さい。			

《授業科目における学習内容》

高次脳機能障害についての基礎的知識を理解し、各種検査・評価の演習を行う。

《成績評価の方法と基準》

学期末試験(100%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 監修:藤田郁代 出版社: 医学書院
高次脳機能障害の理解と診察　平山和美編著　出版社:中外医学社
(竹田)標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 監修:藤田郁代 出版社: 医学書院(以下「標準」と記載)

《授業外における学習方法》

演習の前に検査マニュアルを読み、予習をしておくこと。
適宜小テストを行うので復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

臨床場面において高次脳機能障害は単独で現れることは少なく、多様な症状を呈します。包括的に評価や訓練を行う考え方を、事例も含めてわかりやすくお伝えできればと思っております。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害の評価の流れを説明できる。	プロジェクター	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の評価の概要。		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	半側空間無視の概要を説明できる。	プロジェクター	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	半側空間無視の概要。方向性の注意障害について。		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	BIT行動性無視検査の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター BIT行動性無視検査	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてBITの演習を行う。		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	BIT行動性無視検査の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター BIT行動性無視検査	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてBITの演習を行う。		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー成人機能検査(WAIS-IV)の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター WAIS-Ⅳ	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	グループに分かれて WAIS-IV の演習を行う。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー成人機能検査（WAIS-IV）の目的を理解し、実施・分析できる。	WAIS-Ⅳ	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	グループに分かれて WAIS-IV の演習を行う。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー成人機能検査（WAIS-IV）の目的を理解し、実施・分析できる。	WAIS-Ⅳ	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	グループに分かれて WAIS-IV の演習を行う。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー成人機能検査（WAIS-IV）の目的を理解し、実施・分析できる。	WAIS-Ⅳ	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	グループに分かれて WAIS-IV の演習を行い、記録用紙を提出する。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	標準高次動作性検査（SPTA）の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター 標準高次動作性検査	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	SPTAの演習を行う。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	標準高次視知覚検査（VPTA）の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター 標準高次視知覚検査	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	VPTAの演習を行う。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	失行・失認（半側空間無視含む）などのリハビリについて説明・実施できる。	プロジェクター	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	失行・失認などに関する評価を治療訓練につなげる。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	代表的な変性疾患の鑑別診断、特徴を説明できる。	プロジェクター	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	認知機能に関する演習のフィードバックとまとめ。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	変性疾患による認知機能低下を抽出する客観的指標を説明できる。	プロジェクター	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	認知機能に関する演習のフィードバックとまとめ。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	就労支援に向けて、どのような社会資源があるか説明できる。	プロジェクター	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	社会資源の概要。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害を説明できる。	プロジェクター	当該分野の復習
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害のまとめ。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前頭葉機能と高次脳機能障害の概要を説明できる。標準注意検査法(CAT)の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター CATの マニュアルと 記録用紙 CDラジカセ	「標準」第9章、 CATのマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	前頭葉機能と高次脳機能障害（注意障害、遂行機能障害中心）の概要。グループに分かれてCATの演習を行う。		
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	標準注意検査法(CAT)の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター CAT CDラジカセ	事前配布しているCATのマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてCATの演習を行う。		
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	標準注意検査法(CAT)、遂行機能症候群の行動評価(BADS) の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター CAT、BADS CDラジカセ	事前配布している CAT、BADSのマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	CATの演習続きと、フィードバックとまとめ。 グループに分かれてBADSの演習を行う。		
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	遂行機能症候群の行動評価 (BADS) の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター BADS	事前配布しているBADSのマニュアルを読 んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	BADSの演習の続きと、フィードバックとまとめ。		
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウィスコンシンカードソーティングテスト (WCST)、かな拾いテストについて目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター かな拾いテスト	配布資料及び「標準」p194を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	WCSTとかな拾いテストの演習を行う。		
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	TMT-J、FABについて目的を理解し、実施・分析できる。 ストループテストの目的、概要を理解する。	プロジェクター TMT-Jのマニュアルと記録用紙、FAB配布資料	TMT-Jのマニュアルと「標準」p194を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	TMT-J、FABの演習を行う。ストループテストの概要説明。		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	記憶の分類や記憶障害の概要を説明できる。WMS-Rの目的、概要を理解する。	プロジェクター WMS-Rのマニュアルと記録用紙	「標準」第8章を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	記憶の分類、記憶の回路などの概要。健忘症候群などの概要。		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー記憶検査 (WMS-R)の目的を理解し、実施・分析で きる。	プロジェクター WMS-Rと記録用紙	事前配布している WMS- Rのマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてWMS-Rの演習を行う。		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ウェクスラー記憶検査 (WMS-R)の目的を理解し、実施・分析で きる。	プロジェクター WMS-Rと記録用紙	事前配布している WMS- Rのマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてWMS-Rの演習を行い、記録用紙を提出する。		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	WMS-Rまとめ、ベントン視覚記名検査 (BVRT) の目的を理解 実施・分析できる。	プロジェクター VBRT、 三宅式、S-PA のマニュアルと 記録用紙	事前配布しているBVRTのマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	WMS-Rの演習のフィードバックとまとめ。 BVRTの演習を行う。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	リバーミード行動記憶検査（RBMT）の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター RBMT	事前配布している RBMT のマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてRBMTの演習を行う。		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	リバーミード行動記憶検査（RBMT）、三宅式記銘力検査、標準言語性対連合学習検査(S-PA）の目的を理解し、実施・分析できる。	プロジェクター 三宅式、S-PA、RBMTのマニュア ルと記録用紙	事前配布している三宅式、S-PAのマニュアルを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてRBMTの演習を行い、記録用紙を提出する。 三宅式記銘力検査の概要説明、標準言語性対連合学習検査(S-PA）の演習を行う。□		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レイ複雑図形検査（ROCFT)の目的を理解し、実施・分析できる。 認知症の概要を説明できる。	プロジェクター A4 白紙	ROCFTは配布資料参照。 「標準」第11章を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	ROCFTの演習を行う。 認知症の概要。		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	改訂長谷川式簡易知能評価（HDS-R)，MMSEの目的を理解し、実施・分析できる。事例検討を通じて理解を深め、考える力をつける。	プロジェクター HDS-R, MMSE 記録用紙	
		各コマにおける授業予定	グループに分かれてHDS-R, MMSEの演習を行う。 事例検討・演習を行う。		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例検討を通じて理解を深め、考える力をつける。脳画像の見方を学び、損傷部位に対応する高次脳機能障害を予測できる。	プロジェクター	
		各コマにおける授業予定	事例検討・演習を行う。 脳画像の見方の概要。		
第31回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第32回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第33回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第34回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第35回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			